

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 以和貴会訪問介護員養成事業所

研修事業の名称 介護職員初任者研修

1 職務の理解（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
多様なサービスの理解	3時間	多様な介護サービスの理解について講義を行い、養成所から徒歩圏内にある、通所介護事業所、介護付有料老人ホーム、認知症対応型共同生活介護、小規模多機能型居宅介護事業所、訪問介護事業所の見学を行う。
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	講義内容 ①介護の業務 ②キャリアパスと介護職員初任者研修 ③OJT・OFF-JTを通じた学習の継続
合計	6時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（ 9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
人権と尊厳を支える介護	5時間	（1）人権と尊厳の保持 ①人間の尊厳と自立 ②ノーマライゼーションの意義 ③個人の尊厳と法制度 （2）人権擁護の基本視点 ①高齢者虐待 ②利用者の尊厳の保持
自立に向けた介護	4時間	（1）介護の基本視点 ①介護サービスの社会的役割 ②福祉理念と介護サービスの意義 ③サービス提供の基本視点 （2）介護予防 ①あるべき主体的な生活 ②要介護状態の原因疾患 ③介護予防とは ④介護予防活動の目標 ⑤介護予防活動を支える5つの考え方について
合計	9時間	

3 介護の基本（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専性と多職種との連携 ②介護職の職業倫理	3時間	（１）介護環境の特徴の理解 ①介護環境の理解 ②地域包括ケアの方向性 （２）介護の専門性 ①専門職としての介護の視点 ②チームアプローチの実際 （３）介護にかかわる職種 ①利用者を取り巻く多職種連携 ②多職種連携における役割分担 （４）介護サービスの公共性と職業倫理 ①介護サービスの公共性 ②介護職としての倫理の必要性 （５）利用者・家族に対する責任 ①利用者・家族との関係 ②利用者の自己決定の尊重 （６）社会に対する責任 ①倫理の規範 ②規定されている倫理 ③日本介護福祉士会倫理要綱
③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全	3時間	（１）介護における安全の確保 ①サービス提供と安全の確保 ②事故の分類と実態 （２）事故予防安全対策 ①リスクマネジメント ②事故発生時の対応 （３）感染対策のための基本的知識 ①感染の原因と経路 ②感染源の排除、感染経路の遮断 ③感染症の治療 ④スタンダード・プリコーション（標準予防策） ⑤手洗い ⑥手袋 ⑦うがい ⑧マスク・エプロン ⑨洗浄と消毒 ⑩環境整備 ⑪入浴 ⑫隔離 （４）健康管理とストレスマネジメント ①介護職の健康管理 ②身体的疲労 （５）介護職の労働の権利と労働法 ①権利と労働法 ②介護職と労働法 ③訪問介護員の労働時間として認められる業務
合計	6時間	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
介護保険制度	2時間	（１）介護保険制度創設の背景、目的および動向 ①介護保険制度創設の背景 ②介護保険制度創設までの経緯 ③介護保険制度施行後の状況 ④介護保険制度の目的等 （２）介護保険制度の仕組みの基本的理解 ①介護保険制度の基本的仕組み ②保険給付とその種類 ③要介護・要支援の認定の手順 ④利用者負担 ⑤地域支援事業 （３）制度を支える組織・団体の機能と役割、財源 ①制度を支える組織・団体 - 全体の姿 - ②サービス提供事業所 ③介護支援専門員 ④介護サービス情報の公表 ⑤国民健康保険団体連合会その他の組織 ⑥介護保険事業計画 ⑦介護保険財源 （４）ケアマネジメント ①介護保険制度におけるケアマネジメントとは ②居宅サービスに係るケアマネジメントのプロセス
医療との連携とリハビリテーション①	2時間	（１）医行為と介護 ①医行為と非医行為の範囲 ②医行為への介護者の対応 （２）医療と介護の連携 ①疾病構造の変化と高齢化 ②介護サービスを利用する人から見た医療の現在 ③ケアを提供する人から見た在宅医療の現状 ④ケアにおける連携の特徴 ⑤在宅ケアでの連携の例 ⑥連携の要はコミュニケーション ⑦ケアにおける連携の工夫
医療との連携とリハビリテーション①	2時間	（１）リハビリテーション職種との連携 ①リハビリテーションの理念と目的 ②リハビリテーション医療の過程
障害者自立支援制度およびその他の制度	3時間	（１）障害者福祉制度の理念 ①障害者の自立と社会参加 ②法制度の理念と障害の概念 （２）障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ①障害者自立支援法の概要 ②障害者自立支援法の仕組み （３）個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法 ②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業
合計	9時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
介護におけるコミュニケーション技術	3時間	（1）介護におけるコミュニケーションの技法 ①生活場面におけるコミュニケーション ②相談援助技術の重要性 （2）利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の心理とコミュニケーション ②家族とのコミュニケーション （3）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実態 ①言語・視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション ②失語症・構音障害者とのコミュニケーション ③認知症に応じたコミュニケーション技術
介護におけるチームコミュニケーション	3時間	（1）観察、記録、情報伝達 ①チームアプローチのルーツ ②チームアプローチの効果と意義 ③介護職の記録 ④報告・連絡・相談 （2）コミュニケーションをうながす環境 ①共感的理解とコミュニケーション ②情報の共有とチーム内コミュニケーション
合計	6時間	
6 老化の理解（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
老化に伴うところとからだの変化と日常	3時間	（1）老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①感覚・知覚の変化 ②注意力の変化と反応の変化 ③記憶の変化 ④知能の変化 ⑤感情の変化 ⑥性格の変化 （2）老化に伴うからだの変化と日常 ①加齢の生理学

高齢者と健康	3 時間	<p>(3) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>①身体的・精神的機能の変化と病気、日常生活への影響</p> <p>②おもな症状とチェックポイント</p> <p>(4) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>①生活習慣病とメタボリックシンドローム</p> <p>②高血圧と糖尿病</p> <p>③循環器系の病気(循環器障害)</p> <p>④呼吸器の病気</p> <p>⑤消火器の病気</p> <p>⑥代謝・内分泌の病気</p> <p>⑦脳血管系の病気</p> <p>⑧運動器の病気</p> <p>⑨アレルギー・膠原病・免疫の病気</p> <p>⑩血液の病気</p> <p>⑪腎臓・泌尿器の病気</p> <p>⑫こころの病気</p> <p>⑬眼の病気</p> <p>⑭耳・鼻・喉の病気</p> <p>⑮皮膚の病気</p> <p>⑯歯・口腔・顎の病気</p> <p>⑰感染による病気</p> <p>⑱介護保険の特定疾病</p>
合計	6 時間	

7 認知症の理解（ 6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況 ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	3時間	（１）認知症ケアの理念 ①認知症介護の基本原則 ②最新の認知症ケア （２）認知症の概念 ①認知症とはなにか ②もの忘れと認知症の違い ③認知症の初期症状 ④認知症の診察と診断 （３）認知症の原因疾患とその病態 ①認知症の種類と原因 ②アルツハイマー型認知症 ③血管性認知症 ④レビー小体型認知症 ⑤前頭側頭型認知症 ⑥その他の認知症 （４）原因疾患別のケアのポイントと健康管理 ①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状（BPSD） ③中核症状の薬物療法 ④行動・心理症状の薬物療法
③認知症に伴うところとからだの変化と日常 ④家族への支援	3時間	（１）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ①行動・心理症状の具体的対応 （２）認知症の利用者への対応 ①日常生活支援の基本的対応 ②環境整備と基本的対応 ③心理学的援助方法論 （３）認知症家族介護者の現状の理解 ①家族介護者の介護負担 ②認知症ケアとは ③家族介護者のできること （４）認知症をもつ人の声、そして家族の声 ①「認知症と共に生きる私」の声を心を澄まして聞いてください。 ②当事者や介護家族の思いに見る諸相 ③認知症との出会い、その支援について ④介護者をめぐる3つの修羅 ⑤家族の思い ⑥在宅介護者への休息と癒しと、そして安心を - レスパイトケアの充実を願って -
合計	6時間	

8 障害の理解 (3時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解	3時間	(1) 障害の概念と ICF ①障害とは ②障害の構造 ③障害の受容 (2) 障害者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーションの概念 ②リハビリテーションとは ③インクルージョンとは (3) 身体障害 ①視覚障害 ②聴覚障害 ③平衡機能障害 ④音声障害、言語障害 ⑤咀嚼障害 ⑥肢体不自由 ⑦内部障害 (4) 知的障害 ①知的障害者の生活上の困難 ②知的障害者の心理と行動特徴 ③知的障害者の支援 (5) 精神障害 ①精神疾患 ②高次脳機能障害 ③発達障害 (6) 難病 ①難病とはどのような病気か ②難病の特徴 ③おもな難病 ④難病患者の生活上の障害 ⑤難病患者の心理の実際 ⑥難病の治療 (7) 家族への支援 ①障害の理解・障害の受容支援 ②障害の受容の理解
合計	3時間	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（ 75時間）			
	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	介護の基本的な考え方	3時間	（１）介護の基本的な考え方 ①理論と法的根拠に基づく介護 ②基本的な介護技術の原則 ③介護保険制度下の介護サービス （２）重度化防止の視点 ①予防重視型システムの全体像 ②介護予防を重視する背景 ③介護予防プログラム
	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	（１）高齢者の心理 ①加齢に伴う変化とその心理 ②高齢期のパーソナリティと適応 （２）自己実現と生きがいづくり ①高齢期の喪失体験 ②自己概念と生きがい ③生きがいとはなにか ④生きがいづくり支援 ⑤感情と意欲の基礎知識
	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	（１）人体の名称とはたらき ①人体各部の名称 ②人体各部のはたらき ③骨・関節・筋に関する基礎知識 （２）運動動作に関する基礎知識 ①身体の動きの基本（基本動作） ②ボディメカニクスの原則と介護への活用（DVDを使用） （３）神経系に関するからだのしくみ ①中枢神経系 ②末梢神経系 （４） ①脈拍・心拍 ②血圧 ③体温 ④呼吸
生活支援技術の講義・演習	家事と食事	6時間	（１）家事と生活の理解 ①家事援助の必要性と目的 ②信頼関係の構築と秘密保持 ③利用者の価値観に合わせた生活 （２）家事援助に関する基礎知識と生活支援 ①調理 ②掃除 ③洗濯 ④被服の補修 演習 10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き、裁縫などの演習を行う。

<p>快適な住環境整備と介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(1) 住環境整備 ①住宅の役割と機能 ②家庭内に多い事故 ③高齢者・障害者にとって快適な住まい ④住宅の汚れ掃除 (2) 福祉用具の活用 ①福祉用具の活用にあたって ②福祉用具とその活用方法 演習 10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き具体的な福祉用具の使用方法についてなどの演習を行う。</p>
<p>整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>3時間</p>	<p>(1) 整容に関する基礎知識 ①整容の意味 ②整容行動の仕組み (2) 衣類の着脱の介護 ①衣類の着脱のもつ意味 ②衣類の着脱介護 演習 10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き演習を行う。 ①目標・原則・留意点 ②朝の整容の流れ ③着替え ④和式寝まきの着替え</p>
<p>移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(1) 体位・姿勢の基礎知識 ①体位・姿勢のもつ意味 ②体位・姿勢介護 ③褥瘡の予防 (2) 移乗の介護 ①移乗のもつ意味 ②移乗の介護 (3) 車いすでの移動の介護 ①車いす移動のもつ意味 ②車いす移動の介護 (4) 移動の介護 ①移動のもつ意味 ②外出の介護(移動介助) ③肢体不自由者の歩行介助 ④視覚障害者の歩行の介助 演習 10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き演習を行う。 ①目標・原則・留意点 ②体位の種類 - 基本姿勢- ③体位・姿勢変換の方法(仰臥位から端座位) ④体位・姿勢変換の方法(水平移動) ⑤体位・姿勢変換の方法(上方移動1) ⑥体位・姿勢変換の方法(上方移動2スライディングシートを利用した場合) ⑦ベッドの下方に下がらないために</p>

<p>食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(1) 食事に関する基礎知識</p> <p>①食事をする意味</p> <p>②食事の生理的な仕組み</p> <p>(2) 食事の介護</p> <p>(3) 口腔ケアの支援技術</p> <p>①口腔ケアの意義</p> <p>②口腔の仕組みとはたらき</p> <p>③口腔ケアの基本</p> <p>④口腔ケアの実際</p> <p>演習</p> <p>10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き演習を行う。</p> <p>①目標・原則・留意点</p> <p>②食事の姿勢</p> <p>③嚥下の仕組み</p> <p>④食事の介助1 (椅座位)</p> <p>⑤食事の介助2 (側臥位)</p>
<p>入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(1) 入浴・清潔保持に関する基礎知識</p> <p>①入浴のもつ意味</p> <p>②清潔保持の意味</p> <p>③清潔保持のための行動の仕組み</p> <p>(2) 入浴の介護</p> <p>(3) 身体の清潔の介護</p> <p>(4) 整容の支援技術</p> <p>①洗面の意義・効果</p> <p>演習</p> <p>10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き演習を行う。</p> <p>①目標・原則・留意点</p> <p>②入浴時の介助方法</p> <p>③入浴後の整容</p> <p>④蒸しタオルでの清拭</p> <p>⑤フットケア</p>
<p>排せつに関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>6時間</p>	<p>(1) 排せつに関する基礎知識</p> <p>①排せつの介護のもつ意味</p> <p>②排せつの仕組み</p> <p>(2) 排せつの介護</p> <p>演習</p> <p>10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付き演習を行う。</p> <p>①目標・原則・留意点</p> <p>②排せつのプロセス</p> <p>③日常生活と排せつの機能</p> <p>④排せつ介助の方法1 (杖歩行)</p> <p>⑤排せつ介助の方法2 (ポータブルトイレ)</p> <p>⑥ベッド上での陰部洗浄</p>

	睡眠に関するところからからだのしくみと自立に向けた介護	3時間	<p>(1) 睡眠に関する基礎知識</p> <p>①睡眠の意味</p> <p>②睡眠の仕組み</p> <p>③睡眠の状態と睡眠障害の原因把握</p> <p>(2) 睡眠の介護</p> <p>①安眠への支援と安眠のための介護の工夫</p> <p>②寝具の整え方のもつ意味</p> <p>③寝具の整え方の介護</p> <p>演習</p> <p>10人グループとなり、それぞれのグループに講師が付きベッドメイキング演習を行う。</p>
	死にゆく人に関するところからからだのしくみと終末介護	3時間	<p>(1) 終末期ケアに関する基礎知識</p> <p>①終末期に関する基礎知識</p> <p>②終末期のころからからだのしくみ - 変化と対応</p> <p>(2) 終末期ケア</p> <p>①緩和ケア</p> <p>②家族へのケア</p> <p>(3) 看取り介護</p> <p>①看取り介護の意義・目的</p> <p>②看取りの目的</p> <p>③看取り介護の目標と介護従事者の基本的態度</p> <p>④介護の役割と医療職との連携</p>
生活支援技術演習	介護過程の基礎的理解	4時間	<p>(1) 介護過程の基礎的理解</p> <p>①介護過程の目的・意義</p> <p>②介護過程の展開</p> <p>③介護過程とチームアプローチ</p> <p>④チームアプローチにおける介護職の位置づけ</p> <p>(2) 介護過程の展開</p> <p>①認知機能の低下からおこる不安感を防止し、日常生活を取り戻した事例</p> <p>②なじみのヘルパーとのかかわりで「自立」につながった事例</p>
	総合生活支援技術演習	4時間	<p>(1) 演習1 要介護者・家族介護者への援助</p> <p>①事例の概要</p> <p>②生活状況</p> <p>③山田太郎さんの状態像の把握</p> <p>④必要と考えられる生活支援とその理由</p> <p>(2) 演習2 要支援者への支援</p> <p>①事例の概要</p> <p>②生活状況</p> <p>③伊藤和さんの状態像の把握</p> <p>④必要と考えられる生活支援とその理由</p>
実習		12時間	<p>入所系施設（特養・介護付有料老人ホーム）：6時間</p> <p>通所介護事業所：6時間</p>
	合計	75時間	

10 振り返り（4時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り ②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	4時間	(1) 学習到達度の振り返り (2) 質の向上と人材育成 ①介護人材の将来見通し ②国の取組み ③キャリアパスの全体像 (3) 事業所等における実例に学ぶ ①専門職としての心構え ②事業所等におけるOJT ③継続した学習の必要性 ④介護保険制度の期待に応えるために
合計	4時間	
全カリキュラム合計時間	130時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。